

## 2017年度 湘南藤沢学会研究助成金 成果報告書

### A&T2017-SFC ものづくり初学者を対象にしたワークショップの運営

環境情報学部3年 田村祥子

#### ■概要

ものづくり初学者を対象としたワークショップの運営。4月から3ヶ月間、7月のアートアンドテクノロジー東北での展示を目指し、上級生とともにアイデア出しから実装、展示までを行う。メンバー募集から実装までを慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスで行い、7月1日に岩手大学で作品の展示を行った。

#### ■背景

デジタル工作機械の登場により、ものづくりが一般化してきた。SFCもキャンパス内に3Dプリンターやレーザーカッターを置き、それらを使うことを前提として組まれる授業も多い。しかし、大学に入学したばかりの初心者はそれらを扱う知識も、それらを使う作業の全体的な流れを想像することも難しいと思われる。そういった人たちに向けて、入学直後から短期間で企画・制作・展示を行うワークショップを提供している。1年生の春学期にスタートダッシュとしてもものづくりを一通り体験することで、ものをつくる上で必要な基礎知識や心構え、チームワーク力などを身につけその後の創作活動に活かしてもらうことを目的としている。また、本ワークショップの運営に関わるのは全て学生であり、主にこのワークショップの卒業生である。このワークショップの運営を通して、上級生もデジタル工作機械の活用方法や教育のあり方を探っていく。

#### ■活動成果

2017年度のA&Tでは、ものづくり初心者として16名の生徒とメンターとして15名の上級生が参加した。まず、アイデア出しの方法を学びながら自分の制作したい作品のイメージを作ってゆき、それに基づいて4チームに分かれる。各チームに別れた後は、上級生がサポートをしながら週3日ほどのミーティングをし、作品のコンセプトを練っていく。大体のチームが6月に入るタイミングで実装に移り、OGOBのフィードバックも貰いながら試行錯誤を重ねていく。完成した作品は、2017年7月1日に岩手大学で行われたアートアンドテクノロジー東北に出展した。本大会は 芸術科学会東北支部がメディア芸術領域における優れたアート作品やアート作品の制作支援技術を表彰するためのコンテストであり、国内外のプロ・アマが集う。今年度は、参加したチーム全員が受賞することができ、優秀賞・特別審査員賞・奨励賞を頂い

たい。また、東北での展示を終えた後、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスのメディアセンター内にて同様の作品展示を行い、他の学生や先生、学外で活動するクリエイターにもこの活動と成果を知ってもらう機会を設けた。本活動を通して、新入生は感性が違うメンバーとの創作活動し、0からアイデアを出すことの難しさやそれぞれの役割を見出す困難を感じた。上級生の側も、いかに本質をついたフィードバックを行なっていくかの難しさを体感した。更に、上級生はメンターとしての役割以外にも事務手続きなどの仕事もあり、自身の勉学とワークショップ運営の両立についてそれぞれ学びを得た。これからは、制作した作品のアーカイビングや、全体に対する反省会を行って、来年度以降に繋げていく。



▲アートアンドテクノロジー東北2017での展示の様子

## ■今後の展望

この活動も今年度で9年目となり、このワークショップを卒業した方が海外の大学院で活躍する姿も見受けられてきた。今後も同様にデザインを学ぶ学生による学生のためのワークショップ運営を続けていきたいと思っているが、内容も常に更新することが必要だと感じた。そのために、今までこの活動ではものづくり初心者として新入生だけを対象としてきたが、今後は在生も対象にしたり、作製する作品のジャンルの幅を広げるといったことができる。

## ■謝辞

本活動は毎年行われ、たくさんの方から応募がある活動ではありますが、ワークショップの内容と参加者ゆえに湘南藤沢学会様からの助成金がないと実現できないものです。今回の資金援助により、参加者と運営者共々に貴重な体験ができ、東北とSFCキャンパス内での展示を成功させることができました。A&T関係者一同、深く御礼申し上げます。